

水神様 = = = 三州横山話より

寒狭川の岸に、水神様と呼んでいる碑がありました。それには溺死亡粥の文字があって、毎年七月十三日の日に川施餓鬼を行いました。このやや下寄りに、岩と岩とが、兩岸から出て、川幅が一間ばかりにせばめられたところに、材木などを渡して橋をなしている所を猿橋といって、出水のおりを除くと、村の交通機関になっていました。鳳来寺の寺記によると、昔、天武天皇の勅使が下向ありしとき、この川に橋なく困難のところへ、いずこともなく無数の猿が来て、枯木を川に渡して、勅使を渡し参らせし故、そこを猿橋と言うとあります。



昔の猿橋は、現在の橋の橋台のところに架かっていた。今の橋でも洪水時には水面より数メートル下に沈む。当時は出水の度にかけた丸太が流され交通止めになった。  
(水神様を探したのですが、見つけることが出来ませんでした。)

## 変った祠

馬が死んで建てた馬頭観音や、愛宕神の祠などは、路傍に一団ずつになって幾カ所もありましたが、生砂神境内には、風の神の祠というのがあります。字神田には、近年発電所工事のおりに、惨死した二人の工夫の碑が建てられました。それには、風前頓悟信士、諸行寂定信士の文字がありました。



発電所から猿橋に下りる道の途中にある工夫の碑  
風前頓悟信士、諸行寂定信士の文字が読み取れます。